

Access Report

2021年2月18日号
アクセス教育情報センター

目次

学校情報	入試情報	公開模試情報	教育情報	その他
・桜丘中高	・コロナ下での入試		・共通テスト	・名言・迷言・冥言 ・五輪組織委 ・塾訪問

学校情報

入試情報

コロナ下での入試 各私学の対応2

今年度入試は新型コロナの感染者が増加する中で、感染防止対応に各校とも大変だったことと思います。各校の主な取り組みについて回答をいただきましたので、前号に続き以下に掲載いたします。ご協力有り難うございました。

1) 今年度入試に関してコロナウイルス感染防止対策として行われたこと

1. 出願に関して

K校 これまで通りWebで。

L校 これまで通りWebで。

M校 Web出願だったので問題なし。

N校 オンライン出願の推奨。(本校は窓口とオンラインを併用している)

O校 今年もインターネット出願に。

P校 これまでもWeb出願のみとなっています。

Q校 これまで通りWebで。

R校 これまで通りWebで。

- S校 これまで通りWebで。
- T校 これまで通りWebで。
- U校 これまで通りwebで。
- V校 従来からオンライン出願。
- W校 昨年度同様にWeb出願。帰国生の優遇措置が必要な場合以外に、書類提出がなく学校に来る必要がありませんでした。
- X校 Web出願で実施。コロナ陽性者は受験できないことを告知。その他(濃厚接触者で陰性の方など)は別室受験で対応。
- Y校 今年度からWeb出願に。結果的には感染防止対策になりました。
- Z校 以前からインターネット出願。
- AA校 WEB 出願を継続。これは前年と変更なし。
- AB校 高校入試で併願優遇者に関しては書類選考で極力交流をなくした。
- AC校 以前からWEB出願。
- AD校 例年通り、窓口出願とネット出願の両方で対応。
- AE校 窓口に書類持参の際は、検温と手指消毒を徹底。
- AF校 以前からWEB出願。
- AG校 インターネット出願で。受験票の印刷などが自宅できない場合は、来校せずにコンビニで印刷できるようにご案内。
- AH校 例年通り。
- AI校 以前からWEB出願。募集要項などの資料についてもHPから資料請求可能となっており郵送にて対応。
- AJ校 昨年度よりWEB出願システムを導入し、今年度もWEB出願のみでした。
本校の感染予防対策や入試に関する Q&A は随時更新し、必要に応じて出願者にも一斉メールでお知らせしていました。
- 2. 試験会場への入場に関して**
- K校 手消毒、非接触型の体温計での検温。37度以上の人は通常の体温計で再検温。
- L校 受験生、保護者とも正門で検温。保護者の付き添いは1人に。携帯用の消毒スプレーを渡す。
- M校 入り口で手消毒とサーマルカメラでの検温。37度以上の人は体温計で再検温してもらい、37.5度以上なら別室で受験を予定していたが、37度以上の人はいなかった。
看護師に待機してもらおう。
- N校 サーマルカメラによる体温確認。(体温に異常がある場合は、再度検温の予定でしたが該当者なし)
試験開始時間までに時間がある場合、保護者と受験生を体温確認後、従来よりも机の数と位置を工夫した控室に誘導(特に午後の入試)。控室では受験生同士の間隔を取り感染を防ぐため。
- O校 入り口で手指消毒をしてもらいました。例年よりも10分入場開始時間を早めて余裕をもたせ

ました。

P校 正門入ってすぐの場所に検温室を設け37.5度以上は受験を認めないことにする。保護者の入場は検温室の手前まで。

Q校 入構時に検温。37.5度以上ある場合、受験生・保護者とも入構できない。受験生が37.0～37.4度の場合、内規として別室受験とした。

R校 受付にてサーモグラフィカメラで検温。当日の体温によっては別室で受験。37.5度以上あった場合は、受験を控えていただき、別日に追試を実施。手指の消毒。また、同伴された保護者の方の体温が37.5度以上の場合、別日に受験してもらう場合があります。

保護者の校内への立ち入りは不可。

S校 自宅での検温のお願い。受付での検温・手指消毒・マスク着用の声掛け(マスクを準備)。

T校 来校7日前より検温を行ってもらい、健康調査票の提出。保護者控え室を校舎内食堂から講堂大ホールに変更。

U校 「健康チェック欄」を設けた受験票に、当日朝の体温や体調などチェック項目を記入してもらう。体育館で検温と健康チェック表の提出ゲートを設ける。

V校 昇降口にサーモグラフィ設置。保護者の入校の制限。

W校 入場時には、サーモグラフィによる検温、手指の消毒。

入室順での着席とし、試験時間を8:20、8:30、8:40と3つのグループに分けて実施する。

保護者控室を設けず、受験生のみ入場としたため、入場も退場も時間差がついて分散できませんでした。

X校 正門入ってすぐに手指消毒とサーモグラフィで検温。保護者の引率は1名で。

Y校 付き添いの人数を1名に制限。入口で健康観察表を提出し、手指消毒をしてから入場。

Z校 付き添いは1名までとお願いする。

ソーシャルディスタンスシールを貼り、密にならないよう外に並んでいただく。

AA校 受験生は受験生の検温・手指消毒会場を設置。受験票の確認とともに検温のうえ、問題ないことを確認のうえ受験会場へ誘導する。保護者は1名のみ付き添い可とし、保護者控え室を用意。保護者控室各入り口で生徒同様に検温、手指消毒を実施。問題がないことを確認のうえ利用可とする。試験終了後は学校から最寄り駅までに通学路、最寄り駅の混雑を避けるため、時差をつけて解散指示をだす。

AB校 例年正門からの入場ですが、グラウンドからの入場に変更。保護者の入場を制限(1件保護者からの苦情有り)。

AC校 入り口で密にならないように分散して入場。退場についても同様。サーモグラフィによる検温。手指消毒。

AD校 車での来校を認め、来校時に検温とアルコール消毒の実施。

AE校 車での来園を認め、検温と手指消毒を徹底。37.5度以上の発熱者は、追試験の受験を案内。

AF校 検温、消毒の実施。保護者は試験会場(本館)への入館不可。新館のみ入館可能。

AG校 アルコール消毒、検温機による検温を徹底。上履きの履き替え場所の面積を例年の3倍に

増やし、受付会場も広く設置し密を回避。

AH校 玄関での検温・消毒・マスクの必着を徹底。当日37.0～37.4度の受験生は別室での受験となること、37.5度以上の受験生は受験できないことをあらかじめ伝える(ひとりもいませんでした)。

AI校 検温・手指消毒後に入場。

AJ校 健康チェックシートの持参をお願いしました。入口ではサーマルカメラによる検温と手指消毒、校舎に入る際には靴底消毒マットの上を通過していただきました。保護者付き添いは1名まででしたが入口まで両親で付き添われるケースもあり、保護者の方のお気持ちをひしひしと感じました。

3. 試験会場に関して

K校 試験室は1教室25名にして、机の間隔を空ける。試験室と荷物を置く控室の2教室を用意。控室は常時換気。試験室は休み時間に換気。

L校 中学の教室は普段から規定の50%と余裕のある机の配置になっている。校内のいたる所に手消毒液を配置。放送でこまめな手消毒を呼びかける。

M校 1教室25名で。教室の入り口に手消毒の準備。休憩時間に換気。

N校 受験会場は1教室20名以下に。消毒・換気の徹底、加湿。トイレ休憩時間の延長。

O校 例年よりも5名減らして1会場25名にしました。ほかに、検査陰性の濃厚接触者用、発熱のある受験者用、その他体調不良の受験者用の別室受験会場を3か所設けました。

P校 座席は1教室のMAXを20席に限定。全席にアクリルボード設置。

Q校 受験生の動線の要所に手指消毒剤を配置。試験前後に十分に換気。加湿器・サーキュレーターを適宜配置。前後・左右に十分ディスタンスを取っての着席。

R校 試験場入口にアルコール消毒液を設置。試験場においては、座席の間隔の確保。試験場内のアルコール消毒。校内、及び試験場内は常に換気を実施。常に換気を行うため防寒の準備をお願い。試験中もマスクの着用。

S校 1教室20名以内(実際には15名以内で実施)。試験ごとの換気。入退室の際の手指消毒。受験生控室は指定席に。

T校 入口での検温。一室あたりの人数を絞る。

U校 例年ではHR教室(40～44名収容)に30席(5列6席)としておりますが、25席(5列5席)に減席。休み時間の一斉換気。ゴミの完全持ち帰り。

V校 1教室あたりの人数削減(前年40人→今年30人)。窓開け換気、椅子、机の消毒。受験生、係員のマスク着用(試験監督はマウスガードも)。

W校 1教室の机の数を減らし、休み時間に換気を実施。

X校 1教室あたりの受験者数を例年の70%に。

Y校 1部屋の人数を20名に。また、試験会場をひとつの階で2教室までとし、お手洗いが混雑しないようにしました。常時換気をし、休憩時間には大きく換気をしました

Z校 1教室を40人から30人に減らす。保護者控え室をなくす。

換気システムがあるので試験中は窓を開けず、休み時間のみ窓を開けた。

AA校 教室の座席数を25席に減らし、席の間隔を1m以上あげ、常時換気。オゾン発生装置を完備のうえ、光触媒抗菌コート施工を実施。受験終了後に、使用施設の消毒を実施。

特別受験教室を症状ごとに分けて対応できるよう準備。(1教室最大5名まで)

AB校 例年より教室の収容人数を減らし、監督も2名から1名体制に(密を徹底的に減らした)。

AC校 1フロアで1教室を使用(廊下、トイレが密にならないように)。1教室の人数を15名に。消毒液を設置。

AD校 3密を避けるため2会場で実施、消毒・換気・加湿の徹底。

AE校 1教室の席を最大25席程度として、座席間隔を広くする。エアコンを暖房にした上、外側と廊下側の窓やドアを数カ所少し開けておく。

AF校 1教室の座席数は20席に。別室受験用の教室は座席を6席に。30分に1回換気を実施。

AG校 受験教室の定員を20%削減。常時換気を実施。休憩時間中には窓を開放。

AH校 1教室あたりの受験生を25人に。休み時間には換気を実施。

AI校 1教室25名定員とし、間隔をあけて対応。

AJ校 1教室20名までとし、常時窓開け換気を行いました。試験会場・保護者控室ともにゴミ箱は設置しませんでした。別室受験用の部屋を症状別に細かく分けて準備していましたが、体調不良者は一人も出ず、使うことはありませんでした。受験生と直に接する教職員はフェイスシールド等を着用しました。

4. 試験方法に関して

K校 入試は例年通り。

L校 1日、2日とも午前、午後入試があり、両方受験する受験生もいたが、校内での食事はお断りする。午前終了後、全員、外に出るので、その間に机、椅子等の消毒を行う。

M校 試験実施方法に変更なし。

N校 試験時間は通常と同じ。それ以外の部分(校長挨拶など)を省略し、全体の試験拘束時間を短縮する。

O校 例年通りです。

P校 試験そのものは通常通り。ただしお手洗いで密を避けるために休憩時間を例年より長く取りました。

Q校 通常通り。

S校 グループワークでは「デスクシールド」を設置し各グループ6名以内で十分な距離をとって実施。

帰国できない受験生(中国の深圳)に対してはオンライン入試をマンツーマンで実施。

面接は検温・手指消毒・マスク着用・十分な距離をとる・1面接ごとに面接場所の消毒、などを徹底して実施。

T校 特に変更なし。

U校 帰国生入試では予定していた面接(個別・本人のみ)を中止。その他は例年と同じ。

V校 帰国生入試の面接を中止。

W校 試験時間を3グループに分けて実施した以外は特に変更はありません。

X校 例年と変更なし。

Y校 多くの人が触れることになる問題用紙の表紙と解答用紙は抗菌印刷に。また、保護者同伴の面接を1月中に実施していましたが、緊急事態宣言発令に伴い、中止に。

Z校 問題の配付、回収の際は手袋を用いる。その他は例年通り。

AA校 飲食については受験場、保護者控室において持ち込んだ「飲み物」のみ可とした。ただし、2/1午後入試受験者に対して、食事会場を用意した。

補助生徒を最低限とし、体調に問題がないことを確認した教員のみで対応。

その他は例年通りに実施。

AB校 一般入試に関しては通常通り。タブレット入試を別枠で用意。

AC校 定期的に換気を実施。監督者等全員がマスク着用、手指消毒。監督者、連絡係は立ち位置等に配慮した。

AD校 グループ面接を1対1の個別面接に変更して実施。

AE校 試験監督はマスクを着用し、問題配付・回収の前に手指のアルコール消毒を実施。面接試験の際、受験生用の椅子を一人ずつ交換。

AF校 ポテンシャル入試の面接では、受験生・面接官共にマスク着用のまま実施。

AG校 試験監督による説明は、最前列の受験生から2m以上離れて行う。ひざ掛けの着用を許可。

AH校 試験時間は例年通り。理科と社会の出題範囲を一部削減する。(理科:小学6年の「電気の利用」、社会:小学6年の「国際連合とその他の関連機関」からは出題しないことをあらかじめ伝えておく)

AI校 例年と大きな変更はなし。

AJ校 今年度はグループ面接の実施を見合わせました。筆記試験自体は通常通りに行いました。

5. 合格発表に関して

K校 合格発表も例年通り。Webと掲示で。

L校 発表は以前からWebで。

M校 発表はWebと掲示。皆さんWebで確認してから手続き書類を取りに来られたので、窓口が混雑するということにはなかった。事務所に書類を取りに来られた方にも手消毒、検温をしてもらう。

N校 掲示発表は従来通り実施。密を避けるために教職員を配置。

合格証の手渡しは中止。

O校 インターネットでの発表と校内掲示での発表を同時に行いました。

P校 以前からWebのみでの発表。合格書類の受け取りについては来校者ができるべくすれ違いないように経路を設定しました。

Q校 通常通り(オンラインにて)。

R校 例年通りWebで。

S校 WEB 発表は例年通り。窓口での書類受け渡し、そのたびに手指消毒をしたうえで渡す。

T校 特に変更なし。

U校 以前から全日程Webでの合格発表(合否照会)と入学金等納入に。

- V校 完全オンライン化で書類の受け渡しはなし。
- W校 WEB で発表、手続を行う。合格発表の掲示は、当日実施の試験とは別の午後の時間に設定したため、分散できました。
- X校 例年と変更なし。
- Y校 校内掲示とあわせてWebで発表。今回の特別な措置はありませんでしたが、合格発表での密集はありませんでした。
- Z校 掲示発表をやめ、インターネットのみとする。ただし、各自が入力して合否を確認するものと、番号一覧の2種類とした。
- AA校 掲示発表をやめオンライン発表に切り換える。手続きも来校しないですべて対応できるよう、「オンライン決済」に切り換える。
- AB校 高校一般入試では来校型の発表をやめ、すべて郵送で実施。
- AC校 以前からWEB発表。
- AD校 特になし。
- AE校 合格発表はWEBのみとする。合格書類交付は窓口配布とし、検温と手指消毒を徹底。
- AF校 以前からWEBによる発表。
- AG校 インターネットで発表。合格通知の受け取りのための来校機会を減らすため、合格通知は合格発表時にダウンロードできるようにする。
- AH校 例年通り。校内掲示およびホームページの「合格発表サイト」にて。
- AI校 完全WEB化、手続き資料も郵送で。
- AJ校 WEB発表と掲示発表の両方を行いました。掲示発表後に学校長から直接合格証を受け取れることもあり、わざわざ来校してくださる親子も多くいらっしゃいました。学校長と合格発表掲示の前で記念撮影をしている方もいらっしゃいました。
- 2)出願された受験生の中にコロナに感染(濃厚接触)したと連絡のあった受験生はおられましたか**
- K校 1人熱が高いので欠席する旨の連絡あり。
- L校 1人もいなかった。微熱がある人用に別室を用意していたが、それも使わずに済みました。
- M校 感染等の連絡は1人もいなかった。
- N校 いませんでした。(今年はインフルエンザの方もいませんでした)
- O校 いませんでした。
- P校 いませんでした。
- Q校 なし。
- R校 1名試験前に感染したため、2/18の追試験を受けるとの連絡あり。
- S校 いませんでした。おられた場合は、追加募集という形で2月13日に国語・算数・面接を実施予定でした。
- T校 なし。
- U校 どちらもいませんでした。当日の発熱や体調不良の申告もなく、試験中に腹痛や嘔吐を訴える受験生もありませんでした。本校では感染した受験生への追試設定も、濃厚接触者や自宅待機期間の受験生の別室対応も、どちらもできない旨を通知しておりました。(複数回の試験

- 日程があること。他の受験生との異なる動線確保や自家用車での来校対応が困難なため)
- V校 なし。
- W校 連絡のあった受験生はいませんでした。また、濃厚接触者の方の受験のために別棟の別室での受験を準備しましたが、申告された方はいませんでした。
- X校 いませんでした。体調不良による別室受験も一人もいませんでした。
- Y校 いませんでした。いた場合は共通テストの対応と同じ条件での対応を発表していました。
- Z校 いませんでした。感染者、濃厚接触者、37.5度以上の熱のある方には追試日(2/27)を設定していた。
- AA校 事前連絡ゼロ。当日連絡もゼロ。その他体調不良もなく、特別受験教室を使用する必要はなく4日間終了することができた。
- AB校 なし。コロナで受験ができなかったものに対し中高ともに追試験を設定していた。ただし、体調不良のため追試を受験したいとの申し出は1件あり。
- AC校 個別に追試験を行う予定だったが、感染、濃厚接触共になかった。
- AD校 いませんでした。
- AE校 おられた場合は、追試験をご案内する予定でしたが、おられませんでした。
- AF校 いませんでした。
- AG校 いませんでした。
- AH校 新型コロナに感染したとの連絡はなかったが、当日朝、発熱のため欠席するとの連絡が一人からり、その方には2月19日(金)に行われる追試の受験資格があることをお伝えした。2月19日(金)に国語と算数の2科目での追試を実施することを発表。
- AI校 いませんでした。
- AJ校 濃厚接触も含め、申し出はありませんでした。別室受験がひとりも出ない入試は今年が初めてかもしれません。(昨年までは骨折・腹痛・頭痛・インフルエンザなどの対応で、養護教諭が大活躍でした)

3)その他

- K校 24日に追試を予定している。追試の条件に当てはまる人には12日から18日の間に連絡をしてもらうことになっている。
- L校 保護者控室は換気で寒くなるので暖かい服装でと連絡。カイロを準備して配付する。
- N校 感染等の受験生が出た場合の対応を準備しましたが、利用する必要がなく良かったです。
- O校 付き添いの方を1名でお願いしました。控室は用意しましたが、席数を減らし、飲食は控えていただきました。入学金の納入等入学手続きをインターネットでできるようにしました。
- P校 受験票には、熱があつたり体調不良があつた場合には受験できない旨と、追試験については「応・相談」の旨を記載。
本校での午前、午後連続の受験をされる方のなかで、希望された方には昼食会場を提供しました。その場合の保護者の方の付き添いは1名に限定。
- R校 午前、午後ダブル受験の受験生に対しては、簡易的な食事場所を準備するが、可能な限り校外でとってもらうようにする。食事をとる際は、会話はせずに、手指消毒を行ってもらう。

校内に保護者の待機場所は設けず。ゴミは持ち帰ってもらう。

試験監督、係員等は、当日もマスク着用、手指消毒、体温測定を徹底。

S校 自家用車での来校を認め、事前予約制として近くの教会の駐車場を開放。(生徒手書きの駐車場から学校までの地図は好評でした)

保護者控室でお茶やアメ、雑誌閲覧などのサービスを今年度は中止。

昼食場所は例年通り準備したが、1部屋6組限定で正面を向いての食事などの制限を設ける。

U校 塾関係者の入試応援は遠慮してもらう。

V校 塾関係者の入試応援は遠慮してもらう。

Z校 塾関係者の入試応援は自粛してもらう。そのため受験生に外で並んでもらうことができた。

AC校 合格書類は郵送に。保護者控室での飲み物の提供をやめる。保護者控室を広い部屋に変更。自動車での来校、駐車場の使用を認める。

AE校 保護者控室は、家族をひと固まりとし前後 2M の間隔を空ける。

AF校 コロナ陽性者・感染者、入試当日の発熱者を対象とした追試験を2回設置しましたが、希望者は出ませんでした。

AH校 例年は保護者や塾関係者にお茶を出していたが、今年を取りやめる。また、例年、受験生・保護者に昼食場所を提供していたが、今年は今前と午後の両方を受ける方のみに限定して提供する。受験生と保護者の合流場所は例年玄関としていたが、今年は密を避けるために校庭とする。

AJ校 別室受験者の対応を手厚く行うために派遣看護師を手配したり、換気により室温が下がることを心配してストーブを手配したりと、考える限りの準備を行いました。結果的に看護師やストーブが活躍する場面は少なかったのですが、安心して受験生を迎えることができたと思います。

その他

塾訪問 現代教育学院(2021年1月14日)



現代教育学院 代表 藁谷さん

――塾で教えるようになって何年ですか

藁谷: 学生の頃から家庭教師や塾のアルバイトで教えていましたから40年になります。

— 30年程前に、自分も所属していた塾に藁谷さんが国語の講師で在籍していて、その地区の何教室かの上位クラスを担当してもらい助けてもらったことがありました。なぜ塾で教えるようになったのですか。

藁谷: 人に教えるのが好きで、教え方が上手いと言われていたので、自分でも教えられるのではと思ったのと、塾の講師は時給がよかったということもあります。

— 現代教育学院を設立したのは

藁谷: 25年前の12月8日です。

— なぜ自分で塾をやろうと思われたのですか

藁谷: 自分で何かを経営してみたいという思いがありました。何がやれるかと考えたとき、塾ならやれるのではと思いました。

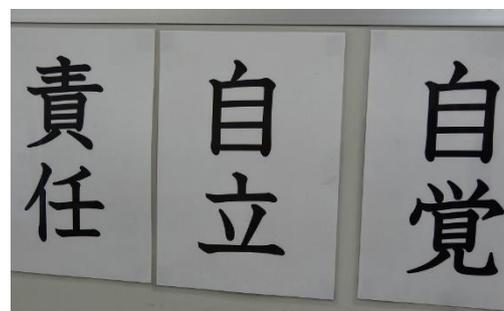
— 現代教育学院の特徴は

藁谷: 他塾にはまねのできないことをやるということです。現代教育学院では「合格する子に育てる」ということを常に言っています。これは全て教室で見るということです。エンピツの持ち方、ノートの取り方、友達との付き合い方から含めて、一人ひとりの合格のための取り組みを全て塾が行います。現代教育学院の子どもは、6年生になると授業の他に補習(S特訓と言って火・木曜日に無料で行っている4科目の復習授業)、自習を含め全員が毎日教室に来て自分の勉強に取り組めます。一人ひとりに、自分に必要なこと、足りないことを考えさせて取り組ませています。子どもの勉強を家庭から切り離して、全てを教室で、私たちの目の前で取り組ませて、その達成具合もその都度本人と私たちで確認しています。これにより、子どもたちの実力を見極め、伸長を促し、的確な受験指導につながっているのだと思います。子どもたち自身も、家にいるより教室に来た方が安心して勉強ができるので、弱い自分と向き合いながらも教室での勉強を続けています。ですから毎日来ても燃え尽きるということはありません。いわばリビングでの学習のようなもので、「家庭学習がこの教室にある」をまさに実践しています。

親御さんには家で子どもの勉強を見ないでくださいと伝えています。親が子どもの勉強を見ているとつい口を出したくなりますが、子どもが反抗して必ずケンカになります。そこで育つものはありません。

塾としてはその修復に余分な労力を使いたくありません。

親が手を出すと、子どもは点数や結果ばかりを気にして、成績や精神状態が乱高下します。また、親があれこれ指図をすると、子どもはその言いなりになっている方が楽なので、自分で考えるということを放棄してしまい、判断力がつきません。結果的に合格する子に育ちません。子どもは他人に任せの方が成長すると思います。親がどれだけ辛抱強く見てくれるかにかかっています。



その代わりに、私たちは受験生としての子どもと本気で向き合っています。教室の中の態度でも、間違っていることは間違っているとハッキリ言います。そこは譲れません。休日でも質問のある子や、補習の必要がある子がいれば付き合いますので、丸1日休みという休日はほとんどありません。

現代教育学院の子どもの成績は低空飛行ですが、第1志望はあきらめません。ジリジリと成績を伸ばしていき、ついには第1志望校に合格していきます。入学してからもその学校の中で必ず伸びています。

―― 合格させるのではなく、合格する子に育てるということですね。塾で教えていて面白さを感じる時は

藁谷：子どもや親御さんから信頼されていると感じたときや子どもの成長を感じたときですね。毎日、子どもたちが笑顔で通って来てくれているのが嬉しいです。他塾で燃え尽きた6年生が、夏過ぎに移って来ましたが、3ヵ月かかって精神的に回復して、笑顔で通ってこられるようになりました。

また、あるお父さんから、入試が終わって挨拶に来られたときに「普段、どういう塾かを母親や娘から聞いていましたが、娘が入試の面接で大人の先生を相手に、自分の意見をハキハキと答える様子を見て、塾でこんなに育ててもらったのかと感じて、合格より嬉しかったです」という話をいただきました。この子は自分に自信が無く、初めての体験授業のときになかなか自分から教室に入って来られなかった子でした。その子が現代教育学院で受験を通して成長した姿をお父さんに認めて貰えて自分も嬉しかったですね。

―― どんな気持ちで子どもと接していますか

藁谷：自分は甲子園を目指している高校野球の監督のような存在だと思っています。グラウンドに立って、毎日の練習から個々の選手がどんな状態か、技量はどうかを見てアドバイスを送る。練習試合でコールド負けをしても、選手は自分で刺激を受け課題を見つけて取り組もうとする。練習をちょっと休みたいという子だっている。それをわかってあげることも大事でしょう。

自分の役割は教育者ではなく、指導者として子どもたちに向き合うことだと思っています。

イチロー選手は6年生の時の作文に「自分は365日、毎日練習をしている。だからプロになれる」と書いていたそうです。目標を持って頑張るところに成長があるのではないのでしょうか。

子どもを見ていく上で、隣の〇〇君と比べるのではなく、昨日までのその子自身と比べて伸びていることに気づかせ、認めてあげることが大事です。「昨日までの自分と比べて伸びている？」と聞くと「先生、わたし去年より50倍も伸びた」と言う子もいます。

常に子どもを見ているからタイミングを外さずにほめることができます。室長が授業を持たない塾にそれができるのかと思います。

―― 塾と学校の違いはどんなところだと思いますか

藁谷：塾はもっと伸びたい、もっと知りたいという子どもの欲求を満たしてあげるところ。今、勉強はできないけれど、できるようになりたい、勉強のやり方を教わりたいという子どもの期待に応えるのが塾ではないでしょうか。ですから、そういう気持ちをどう育てるかが大事になってきます。

学校は制度として行かなければなりません(最近が変わりつつありますが)、塾は来なくてもよいところです。多くの子は親が選んで通ってくるわけですが、入室した当初「君、何しにここに来ているの」と聞くと「行



けと言われたから」という子もいます。受け身の消費者として育ってきている子に、自分からやろうという気持ちを持たせてあげないとなりません。

現代教育学院では「塾の子になれ」と言って、日頃から塾で家庭学習をも兼ねるように学習の場を提供しています。また、家で教えないでくださいと言っているので、面談をこまめに行って塾での子どもの様子について説明責任を果たしています。そのためには普段から子どもの様子を見ていないと話せません。

学校選びに関しても、「うちの子に合っている学校はどこでしょうか」と聞かれることがよくありますが、アドバイスをした学校に進学したご家庭は親子とも満足されています。

最初の緊急事態宣言中に授業や説明会をオンラインで行いましたが、自分としては保護者の方々に現代教育学院の授業を見てもらい、塾のあり方を知ってもらうチャンスだと思っていました。午後からのオンライン授業の他に、毎日、朝9時から12時まで補習授業を行い、保護者の方々に喜ばれました。

こうしたことは学校や大手塾では真似のできないことだと思います。

――現代教育学院では塾に全て任せてくださいということですが、塾を上手に使うためにはどうすればよいでしょうか。

藁谷：塾を信頼して預けていただくことです。そうすれば塾の人間の本能として一生懸命お子さんの面倒を見ます。私たちはどんな子かを早く知り、塾の子にする方法を持っています。

いいとこだけを利用しようという気持ちが伝わるとダメです。

――塾として保護者の方々に望むことは

藁谷：お子さんを厳しく管理し、口出しをして支配しないでください。指示待ち人間にしないでください。面談で「家でどうすればよいですか」「親は(私は)何をすればよいですか」と聞かれることがよくありますが、「何もしないでください」と言っています。厳しくすると、隠す一嘘をつく一言い訳を言う一人のせいにするという負のスパイラルに陥ってしまいます。

あるお父さんから「本当に見なくていいんですね」と言われたことがあります。兄の時にお父さんが教えて、勉強も塾も嫌だと言って、志望校には全部落ちて大変なことになったらしいです。

しかし、塾で子どもを引っ張ろうとしても限界があります。子どもが自分で伸びる環境を作ってやることが塾の役割だと思います。

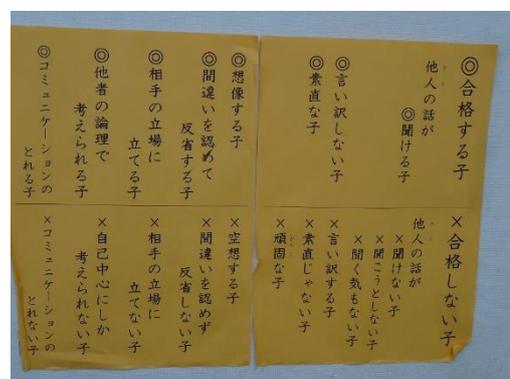
――子どもを指導する上で注意していることは

藁谷：まず、筋を通すことです。昨日と今日で言うことが変わらないこと。常に同じ筋を通さないとイケません。筋を通すにあたり、一人の人として接し、子ども扱いをしません。

そして、ほめることです。ほめる際にはほめるチャンスを見逃さないことが大事です。そのためにはいつも見ていることです。

――伸びる子はどんな子ですか

藁谷：素直な子ですね。それに尽きます。



――家庭でやってほしいことは

藁谷:子ども扱いしないことです。家での生活に役割と責任を持たせてほしいと思います。また、細かい指示を出さずに、自分で考えて判断するようにさせてほしいですね。失敗してもよいから、失敗を叱らないことです。

――現代教育学院の子らしい卒業生は

群馬大の医学部に進学した生徒はやさしくて思いやりのある子でした。焼き肉パーティーを教室で行ったときに、入塾してきたばかりで慣れていない子を自分の席の隣に呼んで、いろいろと気遣いをしてやっていた姿が印象に残っています。この子は九段中等と共立女子を受験しました。九段中等を志望校にしたのは、給食がありお母さんの手を煩わせずに済むことと、兄弟が三人いるので授業料が安いからということでした。結局、共立女子に進学してワンダーフォーゲル部の部長を務め、卒業時には学校を代表して都知事賞をもらう生徒になっていました。現代教育学院の卒業生は、彼女のように、成績的にはギリギリで中学に入学しても中で伸びている子が多いです。

――印象に残っている保護者はおられますか。

藁谷:これまでの付き合いの中でそれはたくさんさまざまにありますが、現代教育学院の方針、考え方と反対のことをされ、なによりも子どもにつらく悲しい思いをさせてしまったという後悔から、心に残っている話をしたいと思います。

体験授業を受けていただいて、入室するかどうかの初めての面談のときにお父さんが一人で来られました。そして開口一番「中学受験をして、人生、幸せになるんですか？」と聞かれました。いきなり、そんな質問で驚きました。「さあ、それは個人個人の考え方、受けとめ方の問題で、私がどうこう申し上げることはないと思います」とまずは答えました。すると「うちの妻は中学受験をさせたがっているが、私は別にそうは思わない」と言われたので、「それはご家庭で決めることですから、その上で現代教育学院に通うのか判断してください」と申し上げました。

結局、入室されました。新4年生の3月のことだったと覚えています。それから2年経ち新6年生になってからのことです。本人は素直で明るい子で、楽しく塾に通ってきていました。成績も伸びてきていたので、こちらも期待していました。ところが、その明るい表情が曇りだしたのです。ノートややってきた宿題を見れば、親の手が入っていることがわかります。そして、成績がたちまち失速しました。普通に通っていればあり得ない現象です。

5月の面談の際に、お母さんにあらためて現代教育学院の方針を伝えながら、それとなく遠回しに懸念を伝えました。しかし、その後も子どもの状態は悪くなっていきました。次の6月の面談の際に、お母さんに家での様子をはっきりとお聞きしました。すると「夫婦といえども他人ですから、それぞれの考え方の違いもあって言いにくいことはあります。ときには感情的になって手を上げる主人と娘との間に割って入ったことも何度かあります」と吐露されました。

9月になっても状況は好転せず、外部模試の会場テストも体調が悪いと言って受けにいけない状態でした。あんなに元気で明るかった子が悲しい涙を流すばかりです。



10月になって両親に面談に来てもらい、このままでは自分はお子さんをお預かりできない旨を話しました。そして、父親にはこれから子どもの勉強に手を出さず、塾に任せてもらうという約束をしていただきました。その後、12月、1月と学力が回復してきましたが、ギリギリの判断で、当初目標にしていた中学の合格は厳しいと思われたので、別の学校を受験しました。現代教育学院に任せていただき、塾の子として成長していってくれば、1回目がダメでも、もう1回チャレンジすれば合格を取ってくるだろうということが読めますが、その時の本人の表情、気力からはそういう読みができませんでした。

毎日一緒に教室で楽しく勉強していた仲良しグループの全員が、当初の同じ志望校に力強く挑戦して合格を取ってきていたので、その分、その子の合格が自分の中では晴れ晴れとしたものにはなりません。絶対、合格させることができた能力のある子だっただけに、その学校を受験させられなかった辛さは私にも強く残りました。両親にもこの受験が暗い影を落としたのではないかと思います。

常々、塾の人間として親のエゴとも闘っていると感じていますが、このときほど親のエゴにうんざりして塾という仕事を辞めたいと思ったことはありません。

「中学受験は人生の幸せにつながるのか」それは今でもわかりません。ただ、やるからには精一杯、力を発揮できるように、そして、たとえ志望校に合格できなくても悔いなく思いの丈を遂げる受験をしてほしいと思います。いつも言っている「負けっぴりのよい」受験をしてほしいと思います。

――学校選びに際して学校を見る上での注意点はどんなところですか

藁谷:どんな先生がいるかを見ることです。たとえば、説明会で先生にユーモアがあるかどうかですね。説明会で我が校は偏差値はそれほど高くないが、大学にこれだけ合格しておりお買い得ですよと説明する学校があり、その説明に惹かれている保護者もいますが、偏差値や大学合格者数などの数値は関係ありません。

また、現場の先生が自由にものを言えない軍隊のような雰囲気のある学校もあります。上意下達でマニュアルでしか先生が動けない。全てのことに、上の指示を仰がなければならないような学校は嫌ですね。そんな先生が生徒の自主性を育てられるわけがありません。

――塾の立場から私学に望むことはありますか

藁谷:説明会でも似たような取り組みが強調され、私学全体が同じような学校になりつつあると感じます。同じような学校なら偏差値や大学進学結果の数字で決める保護者が出てきても仕方ないのかと思います。

やはり私学ならではの個性を大事にしてほしいと思います。そうすると学校の個性で学校を選べるようになり、学校選びが楽しくなります。男子校、女子校はとくにその良さを強調してほしいですね。

――中学入試を通して子どもが成長するためには

藁谷:自分でやらせること。自分でやってできたことを実感できるように、周りは我慢して見守ることです。釣りでも自分の竿にかかった魚を自分で引きあげたときの手応えはずっと残ります。それを親が網を持ってすくってあげたら、その手応えを感じられません。

そして、できたことをほめてあげる。

山本五十六の言葉ではありませんが「やってみせ、言ってきかせて、させてみて、ほめてやらねば

生徒は伸びない」というのが自分の指導者としての信条です。

――その他に塾の人間として心がけていることは

藁谷：よき隣人でなくてはいけません。子どもたちが通ってくるにあたり、近隣の人たちに迷惑をかけないようにしなくてはいけないと思っています。また、勤勉でなくてはいけないと思っています。

＝塾訪問は、小規模ながら地元に着して、中学受験を子どもの成長の機会として取り組んでいる塾を紹介していこうと思います。また、そうした塾の人たちが私学をどう見ているのかも伝えていければと思っています。不定期での掲載となります。＝